

出張医学教育FD(小諸厚生病院)

【日時】 平成26年9月29日 18時00分～ 18時30分

【場所】 小諸厚生病院

【参加人数】 15名

【内容】

○卒前クリニカルクラークシップの現状

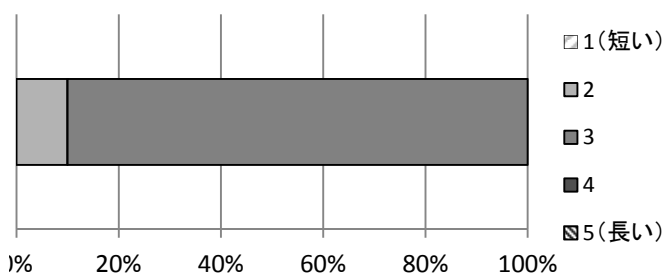
○信州大学における今後の臨床実習

- ・150通りの選択肢からなる参加型臨床実習について
- ・学生が行うことのできる医行為について
- ・臨床実習の指導医

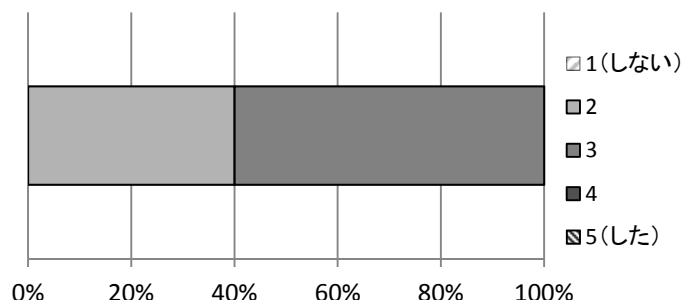
○患者の同意と事故補償



FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



参加者の意見

FDで分かったこと	FDで疑問が残ったこと	ご意見
大学外で臨床実習をしなければならない理由。	医学生が1か月間、小諸に居住することになり、その間の生活サポートはどうなるのかわからなかった。1か月間、引っ越してくるということですか？	本年、アドクリで1ヶ月ずつ3クール実習を受け入れました。毎月毎月外に出る実習が続く中、学生も大変かもしれませんが、実習終了に際し、御礼の葉書などでもあるとこちらのモチベーション維持にもなると思います。今回特に、病棟やスタッフへも、我々にも何も挨拶がなく、非常に意欲の低かったことがありましたので、ご検討下さい。
ECFMG	何をさせるか決める上で、法的根拠はあるのか。逆に法的根拠から何をさせて良いかきまるのか？	日本国内全ての大学医学部は、WFMEの認証を得られそうですか？
日本の医学教育の特異性、世界水準との隔絶。	対応できるのが、時間外になってしまう可能性もあるが、時間外の指導は許容されるのか？	マンパワーがないので、指導できるか不安。
医学生に医行為をさせる意義。「参加型」必要性。	ECFMG基準を満たさない場合、日本国の医師国家試験の受験資格はどうなるのか？	
学生が、これまでの研修医に近い形で臨床実習にくるという理解が良いのでしょうか。		